

国連防災世界会議に向けた HFA 市民セミナーを開催しました（2014/7/18）

テーマ：HFA（Hyogo Framework for Action）
場所：せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）

災害科学国際研究所は、この夏に「HFA IRIDeS Review Report Focusing on 2011 Great East Japan Earthquake（英語版／日本語版）」を発行しました。その報告も兼ね、2014年7月18日（金）せんだいメディアテークにおいて、第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会／仙台市共催のもとHFA市民セミナーが開催されました。

わが国は、世界の中で最も自然災害による都市リスクが高い国のひとつであり、自然災害に対して長い間、奮闘してきました。こうした背景の中、2005年に神戸にて第2回国連防災世界会議が開かれ、世界で進めていくべき災害リスク軽減のための取り組みである「兵庫行動枠組み2005-2015（HFA: Hyogo Framework for Action 2005-2015）」が採択されました。来年3月には、第3回国連防災世界会議が2011年東日本大震災の被災地である仙台で開催されます。そこでは、今後の防災上の方向性を示すべく、HFAの改訂が見込まれています。

本セミナーの第1部では、丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）の司会により、市民の皆様に対して、村尾修教授（地域・都市再生研究部門）より「わが国の災害対策と国連防災世界会議」についての講演があり、小野裕一教授（情報管理・社会連携部門）から「Hyogo Framework for Action」についての説明がありました。その後、井内加奈子准教授（人間・社会対応研究部門）／佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）／村尾修教授／泉貴子准教授（情報管理・社会連携部門）により、「HFA からみた東日本大震災の教訓」が報告されました。最後に、富田博秋教授（災害医学研究部門）から、災害医療の視点からみたHFAのあり方についての講演が行われ、源栄正人教授（災害リスク研究部門）の挨拶により、締めくくられました。第2部は、2013年フィリピン台風ハイエン調査についての報告会でした。

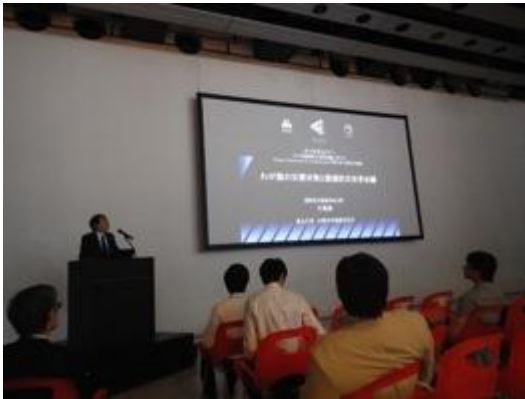
セミナー聴講およびパネル展示には、県内外の一般市民をはじめとして、行政関係者、報道関係者、東北大学関係者など、200名を超える方々にご参加いただきました。セミナー中も活発な質疑応答が交わされ、HFAや国連防災会議に対する皆様の関心の高さが伺えました。また、セミナー終了後のアンケートでは、「HFAに対する理解が深まった」という回答が数多く寄せられました。本セミナーの開催によって、次回国連防災世界会議への関心が高まり、災害大国であるわが国の経験が多くの皆様に共有され、今後の減災対策に少しでも貢献できれば幸いです。



セミナー主催の挨拶をする原理事（東北大学）



セミナー共催の挨拶をする伊藤副市長（仙台市）



国連防災世界会議について紹介する村尾教授



HFA について説明する小野教授



HFA 優先行動 1 について報告する井内准教授



HFA 優先行動 3 について報告する佐藤教授



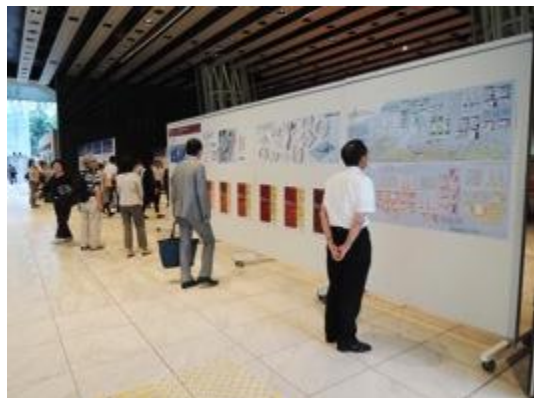
HFA 優先行動 5 について報告する泉准教授



災害医療の視点から HFA について講演する富田教授



セミナー会場の様子



パネル展示の様子